

町史編さんだより

『日野町誌 続編』発刊しました

日野町では、町制施行60周年記念事業として「日野町誌 続編」をこのほど発刊しました。本誌は、記念品として町民全世帯に1冊ずつ無償配布するとともに、県内の関係機関や図書館、町内の官公署、団体などに贈呈していますので、ご活用ください。(右写真/日野町制スタート時の役場庁舎、昭和34年)

平成27年に編さん事業がスタート

日野町では、過去、昭和45年に「日野町誌」を発刊し、町民が郷土史を学ぶうえでの基礎資料、行政資料として愛読されてきました。その後、発刊から40年以上の歳月が過ぎ、新たな町史の発刊を求める声の日ごとに高くなってきました。

そこで、平成26年3月に日野町史編さん準備会を、翌27年4月には日野町史編さん室を設置し、11月に日野町史編さん委員会を立ち上げました。10人の委員で編集方針などを決定して、町制施行60周年に合わせ、編さん事業がスタートしました。委員のほか、協力員、



▲日野中学校が開校 (昭和59年)



▲鳥取県西部地震の影響で2カ月早く新日野病院が開院(平成12年)



▲金持祭りを開催 (昭和61年)



▲別所地区が映画「八つ墓村」のロケ地に選ばれる (昭和51・52年)

調査員、執筆者を集め、資料収集、現地調査、執筆作業を進めるとともに、編集、印刷・製本は株式会社今井印刷(米子市)に委託しました。内容については、昭和45年に出版された「日野町誌」以降の日野町のあゆみを中心に記載することにし、名称は「日野町誌 続編」としました。そして、このほど約4年間の歳月をかけ、発刊の日を迎えました。

郷土史に興味を持ち、ふるさとに親しみと愛着を

ゆみ、神社・仏閣などを、約1100ページにわたって掲載しています。郷土の自然や歴史、町のあゆみを後世に語りついでいくことは、郷土を愛する心を養うだけでなく、まちづくり、地域の活性化にもつながるものです。町では、全世帯に無償配布しています。郷土史に興味を持ち、ふるさとに親しみと愛着を感じながら歴史を学ぶ資料として活用されることが期待されます。

旧日野町誌は図書館で貸し出しできます

昭和45年に発刊した「日野町誌」は、町図書館の蔵書として3冊あります(うち1冊は貸出可能)。「第一編 自然環境」「第二



▲平成7年にオープンした文化センターは町の芸術・文化の中心に (平成7年)

編 過去の日野町」「第三編 現在の日野町」「第四編 未来の日野町」に分けて編集されています。続編には記載されていない歴史や町のあゆみが、数多く紹介されていますので、併せてご覧ください。町史編さんだよりは、今回で終了します。今までありがとうございました。

職員が勝手に
ススメる1冊♪
“今読みたい本”が
見つかるかも!?

読んでみたらんかな～



『 ゆっくり、いそげ』

カフェからはじめる人を手段化しない経済』

影山 知明 著 / 大和書房

「ゆっくり、いそげ」。ラテン語で「Festina lente（フェスティナ・レンテ）」。「この言葉は「ゆっくり」と「いそげ」という、一見すると相反する意味の言葉が組み合わせられてきています。この本で著者が伝えたいことは、「目的地への到達を急ぐのであればあるほど、むしろ目の前のこと、足元のことを一つ一つ丁寧に進めた方がいい」「もしくは一つ一つ丁寧に進めていけば、存外早く目的地に到達できるものだ」ということ。「急がば回れ」に近く、私にも思い当た

る節があります。著者の影山さんは、もともと経営コンサルタントやベンチャーキャピタルの仕事をしてきた方です。「利益」「効率」「成果」などに代表される資本主義の力学を理解しつつも、資本主義が置き去りにしてきた「時間」「価値」「関係性」などについて今一度再考する必要があるのではないかとこのことを、東京都西国分寺にあるカフェ「クルミドコーヒー」での経営を実例にして、読者に問いかけてきます。

副題の「カフェから

はじめる人を手段化しない経済」という言葉にも、著者の思想が端的に表されています。経済（＝経世済民）において「他人を利用（テイク）しよう」という発想では、生産者も消費者も互いの利益のために利用し合うことになり、関係性は先細っていきま

す。そうではなく、「支援（ギブ）し合う」、つまり、お互いがお互いに「贈与」する気持ちが生産者と消費者との関係性を育て、そこに新たな価値が生まれていく、そのようなことが書かれています。

この本はあくまでカフェを事例とした目録で書かれています。人にかかわるすべての職業・仕事へのヒントにもなるのではないのでしょうか。

目の前のことに没頭するあまり、大事なことを置き去りにしてはいないか。そうではなく、急ぐのであればあるほど、目の前の人、今向き合っている人たちに丁寧に接していくこと。一見矛盾すると思われるこの考え方が、その近道なのかもしれないという、大切なことを思い出させてくれる一冊です。

この本を紹介
してくれたのは...



日野高校魅力向上コーディネーター

は せ が わ だ い す け

長谷川 大介

5月から日野高校のコーディネーターとして、さまざまな活動を行っています。生徒の課題研究をサポートしたり、学校内でワークショップを開いたりしています。今後もいろんな場面で皆さんとかがわることがあると思いますので、よろしくお祈りします！